

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§ 1 一般事項

1-1 基 本 事 項

1. 使用材料、工法等は特記仕様書および設計図による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準に明記なき場合は特記仕様書に指定した
共通仕様書による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

§ 2 共通事項

2-1 材 料

コンクリート

規格番号	JIS A 5308	N/mm2		
位置	種類	設計基準強度 Fc	比重	スラブ
主架構全般	普通コンクリート	21	2.3	15
土間コンクリート	普通コンクリート	18	2.3	15
捨てコンクリート	普通コンクリート	18	2.3	15

鉄筋

規格番号	径	表示	種類	継手
JIS G 3112	10～16mm	D	SD295A	重ね継手

2-2 基 礎 形 式

ベタ基礎 必要地耐力20 (kN/m2)

2-3 鉄 筋 の 表 示 記 号

記 号	○	×	◇
呼び径 d	D10	D13	D16
最外径 D	11	14	18

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合
・機械式継手表示
・溶接継手表示
(ガス圧接、突き合せ溶接)

2-4 鉄 筋 の 折 り 曲 げ

鉄筋末端部

曲 げ 角 度	図	鉄筋の種類	折り曲げ内法直径 (D)	
180°		SD295A	D16以下	3d以上
135°				
90°				

鉄筋中間部

折り曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	折り曲げ内法直径 (D)
90°以下		帯 筋 あばら 筋 スパイラル筋 ス ラ ブ 筋	SD295A	D16以下	3d以上
		ス ラ ブ 基 礎 梁 などの主筋	SD295A	D16以下	4d以上

2-5 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm2)	重ね継手の長さ (L1)	定着の長さ		
			一般 (L2)	下端筋 (L3)	
SD295A	18	45d 又は 35dフック付き	40d 又は 30dフック付き	25d 又は 15dフック付き	10d かつ 150 以上
	21、24	40d 又は 30dフック付き	35d 又は 25dフック付き		

コンクリートの割製のおそれのある部分への定着はL1とする。

1. 末端のフックは、定着及び重ねの長さには含まない。
2. 直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細いほうの鉄筋の継手長さによる。
3. 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着 (L2)、上端筋は25dとする。
4. 軽微な箇所については、工事監督者の承諾を得て定着長さを20d程度とすることができる。

2-6 継 手 一 般

1. 重ね継手 (下記いずれかとする)

1. 5L1以上 約0. 5L1

2. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。

・鉄筋のあきaは原則として下記による。
呼び名の数値dの1. 5倍以上
粗骨材の最大寸法の1. 25倍以上
※溶接継手、機械式継手の場合のDはスリーブ又はカップラーの径とする。
・鉄筋径が異なる場合は大きい方による。

2-7 鉄筋のあき

2-8 かぶり厚さ

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部 位		かぶり厚さ		
		仕上げあり	仕上げなし	
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	30 (20)	30 (30)	
	柱 梁 耐 力 壁	屋 内	40 (30)	40 (30)
		屋 外	40 (30)	50 (40)
	擁壁・耐圧スラブ	50 (40)	50 (40)	
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		50 (40)	
	基礎・擁壁・耐圧スラブ		70 (60)	

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げあり とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。

§ 3 基礎梁

基礎梁の継手
重ね継手長さは、L1とし、継手位置は下図とする。

(注) [] は、継手の好ましい位置を示す。

定着要領

(注) 破線は、柱内定着を示す。

・コンクリートの試験は公約 (知事認可) 機関にて行うこと。
・コンクリートの強度試験方法、調査及び養生方法
打込日、打込区ごと、150m3又はその端数ごとに1回とし、検査ロットとする。
1回の試験に使用する供試体の数は、3個を標準とする。
3個の供試体の採取は任意の3台の運搬車から1個ずつ、合計3個採取する。
1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値とする。
コンクリートの養生は現場水中養生とする。
強度管理の材齢28日を超える場合は現場封かん養生とする。
計画調査は、所要の強度、耐久性が得られるよう定め、承認を受ける。
調査強度は下記の両式を満足するものとする。(材齢28日の場合)
$$F_{28} \geq F_q + T + 1. 73 \sigma$$
$$F_{28} \geq 0. 85 (F_q + T) + 3 \sigma$$

スラブ (cm)	15
水セメント比 (%)	65以下
単位水量 (kg/m3)	185以下

湿潤養生期間：5日以上 (普通ポルトランドセメント、一般、標準)
養生温度：2℃以上に保つ (寒冷期、5日以上)

・コンクリートの型枠の取外し時期及び方法 せき板の在置期間 (普通ポルトランドセメント)

型枠の取外しは、型枠の最小存置期間後に行う。(下表)
静かに取外し、支保工や埋込金具を傷めないようにする。
所定の材齢まで初期養生を行う。

	基礎	
コンクリートの材齢による場合	15℃以上	3日
	5℃以上	5日
	0℃以上	8日
圧縮強度による場合	5N/mm ²	

(仮称)スタイルデザイン (平屋) 新築工事

sign

drawn

checked

date
2018. 06. 30

drawing title
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (１)

scale
1/100

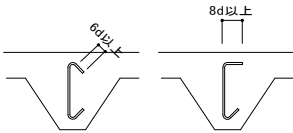
drawing No.
S01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

3-2

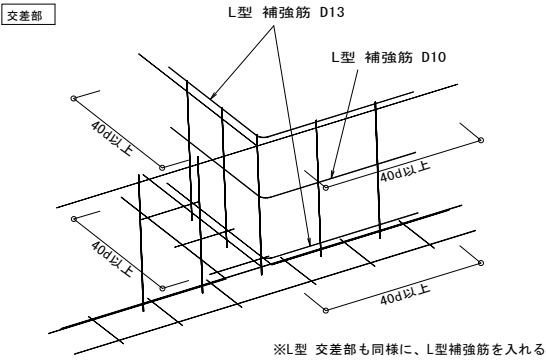
あばら筋

・あばら筋の加工は下図による。同時打込みのスラブ付の場合に限る。
※ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。



3-3

補強筋



3-4

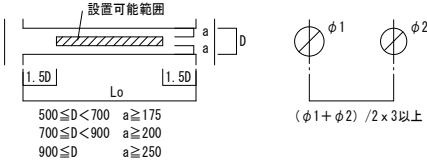
梁の貫通補強

梁 貫通補強
 $\phi > D/10$ 又は、 $\phi \geq 150$ の時、下の鉄筋補強を施す事。

梁巾	穴径	100 ϕ	150 ϕ	200 ϕ	250 ϕ	300 ϕ	350 ϕ	400 ϕ
梁成								

種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

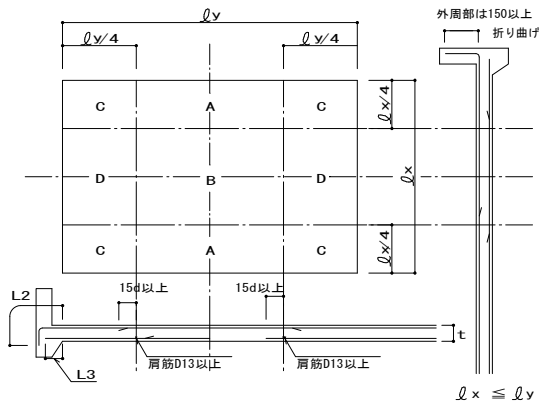
(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。



§ 4 スラブ

4-1

鉄筋の折り曲げ及び定着



4-2

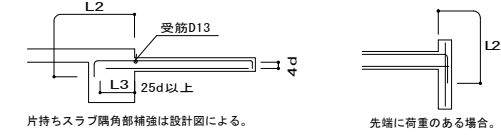
継手

下向き荷重を受けるスラブの継手位置は下表による。
上向き荷重を受けるべた基礎（耐圧スラブ）の継手位置は下表の上端筋と下端筋を逆に読む。

		標準継手位置	
上端筋	短辺方向	B	D
	長辺方向	A	B
下端筋	短辺・長辺方向	A	C D

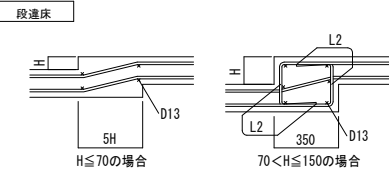
4-3

片持ちスラブ

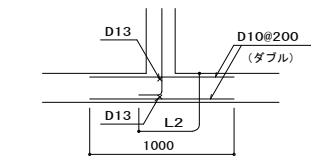


4-4

補強筋



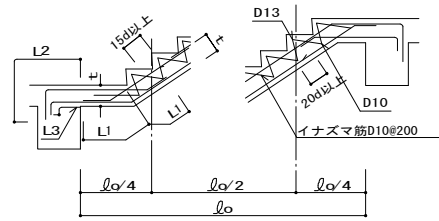
RC壁・CB壁が床にのる場合



5-1

階段

スラブ階段



5-2

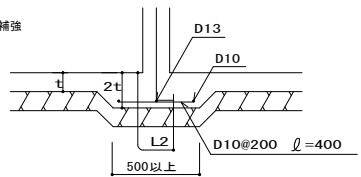
土間コンクリート

土間スラブの打継ぎ補強筋
(土間コンクリート、構造スラブ 共)

スラブ配筋	中間部	端部
シングル		
ダブル		

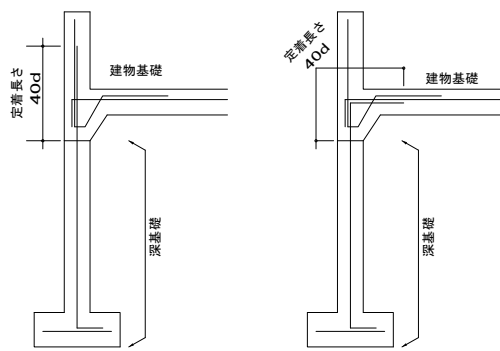
a ≤ 300mm b: スラブ上端筋と同径、同じげとする。

RC壁・CB壁の補強

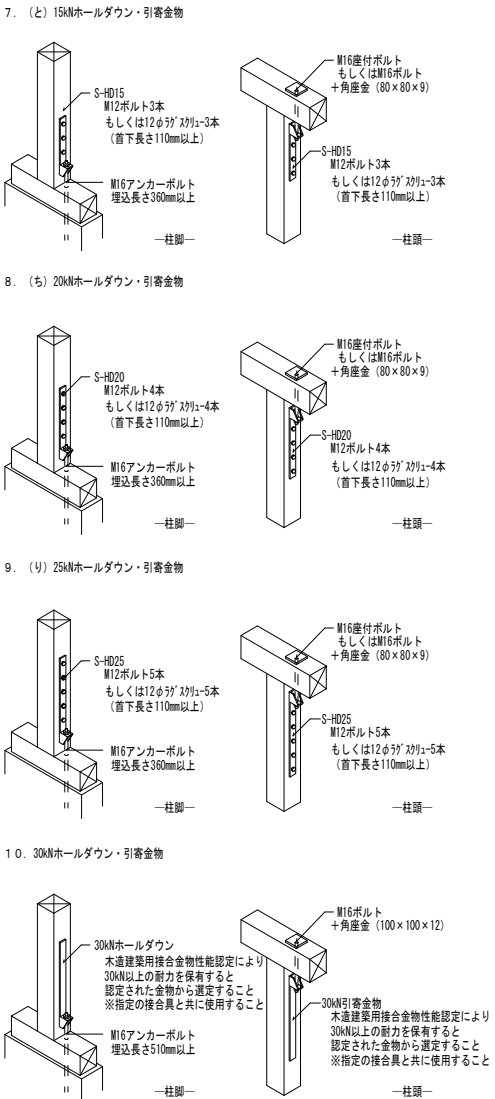
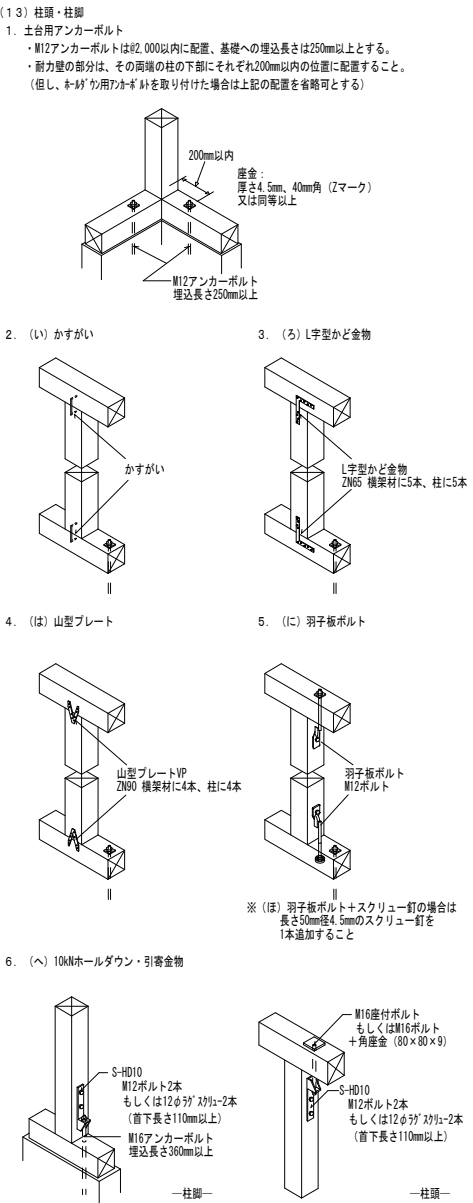
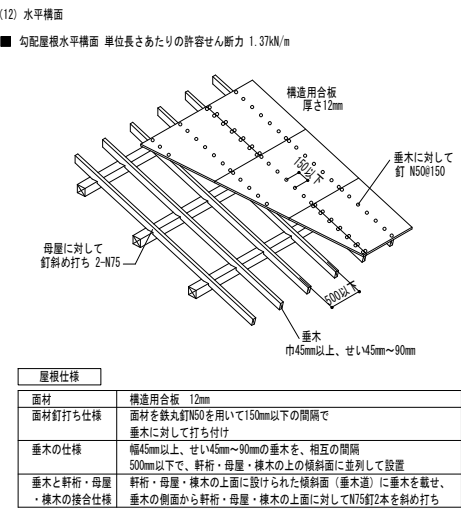
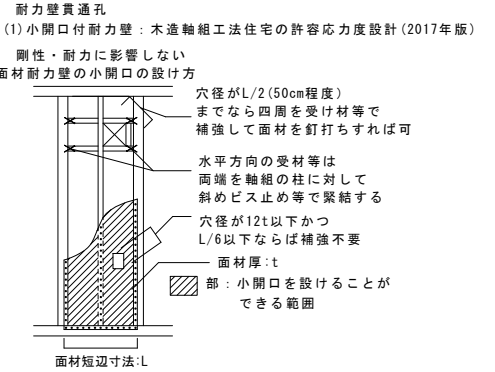
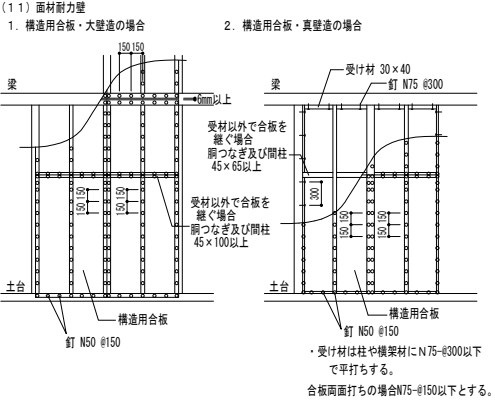


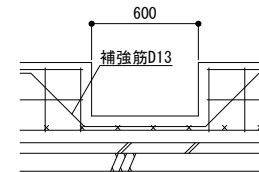
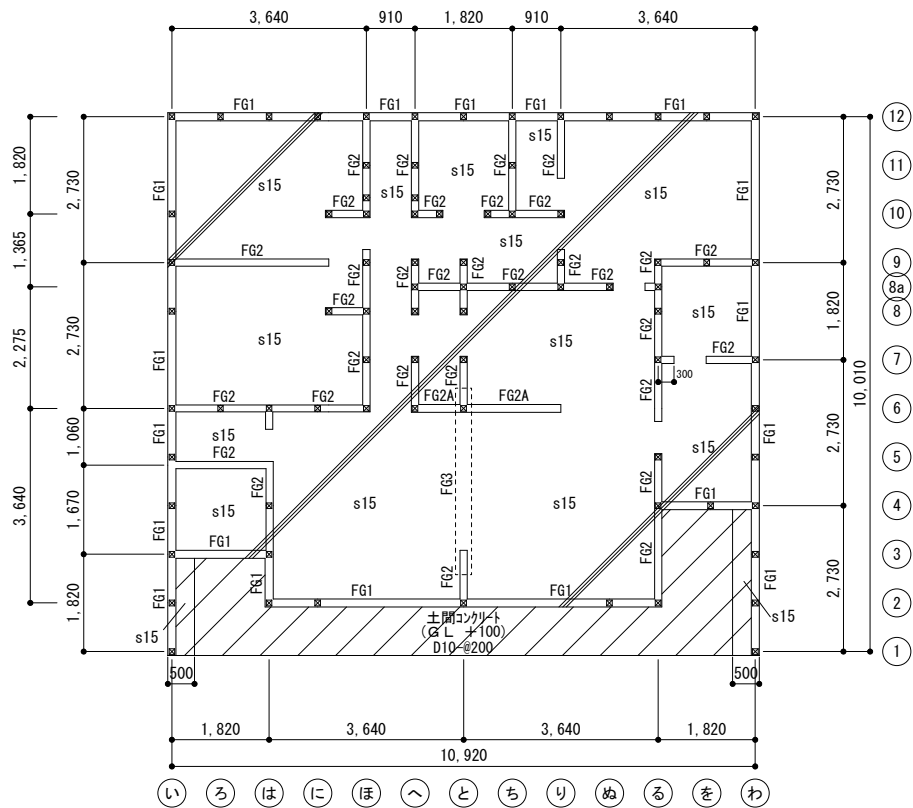
5-3

深基礎

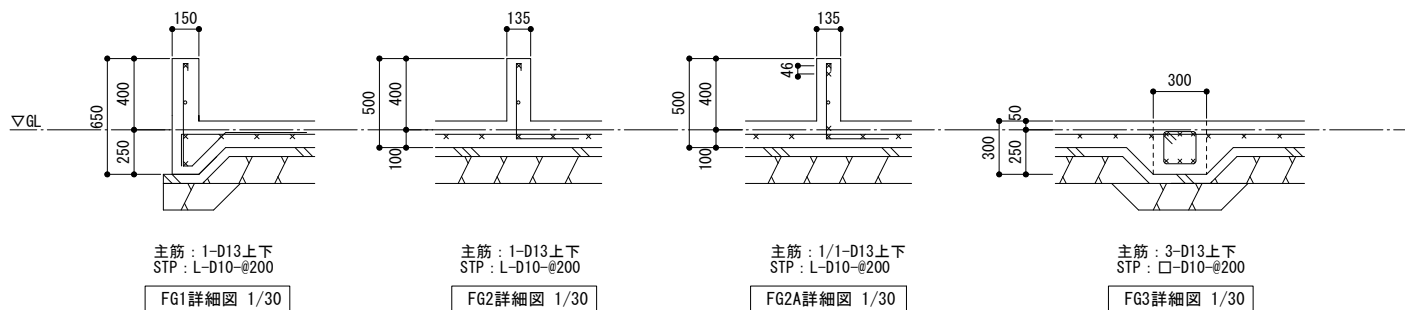


木工事・軸組工法工事 補足特記仕様書（その3）

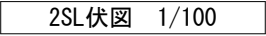




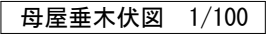
床版リスト				
符 号	版 厚	層	短辺方向	長辺方向
s15	150	シングル	D13-@200	D13-@200



※基礎の立ち上がり筋の端部はフックを設けるか組み立て溶接とすること。

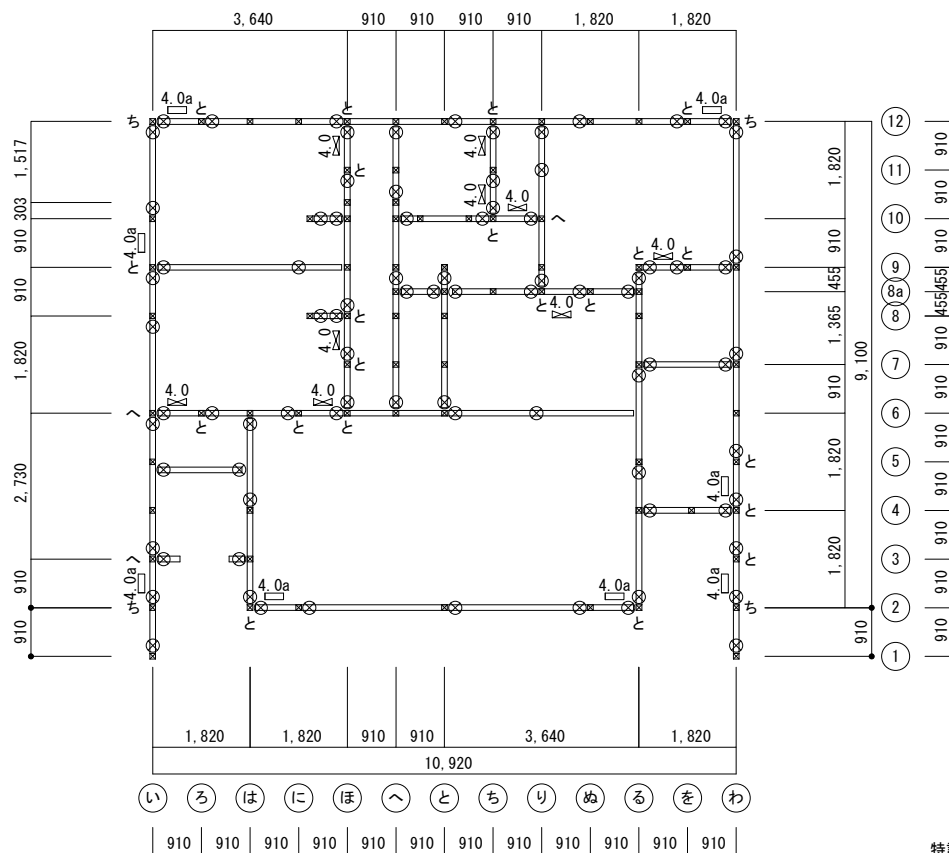


特記なき限り
図面は見上げとする。
◎ 柱位置を示す。
柱105角とする。
梁105*150とする。
梁巾105とする。
4.0 筋交い位置を示す。
⊠ 仕様の壁面材仕様参照
／ 火打ち90角を示す。



壁耐力壁の仕様

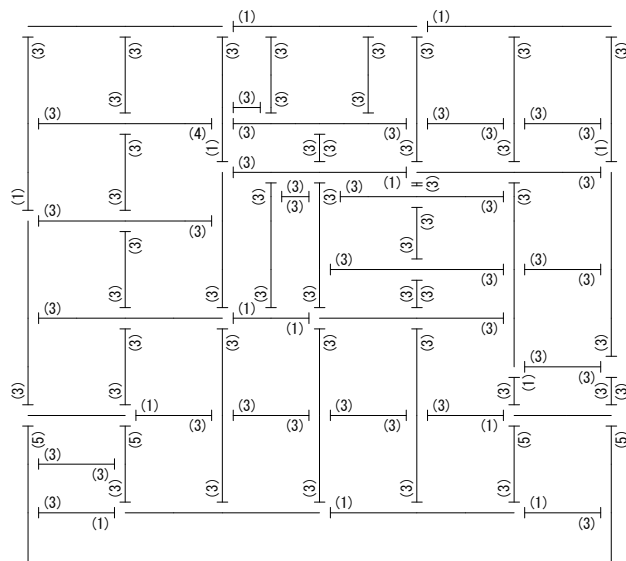
scale /100			drawing No. S07
---------------	--	--	--------------------



土台伏図 1/100

特記無き限り
土台枠105*105とする。
※ アンカーボルトM12-埋め込み \geq L250を示す。
図中配置は土台のアンカーボルトとしホールダウンは別途柱脚金物図参考とする。

M12アンカーボルト (取付位置)	2700mm以内の間隔 出隅・入隅位置 土台継手の上木を押さえ込む位置 耐力壁の両端の柱の近接位置
----------------------	--

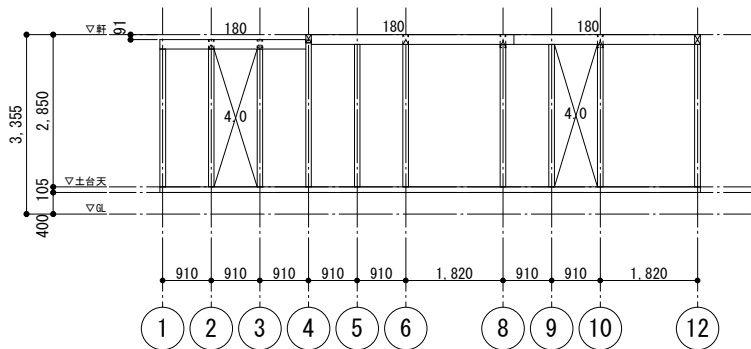


- ⑫
- ⑪
- ⑩
- ⑨
- ⑧a
- ⑧
- ⑦
- ⑥
- ⑤
- ④
- ③
- ②
- ①

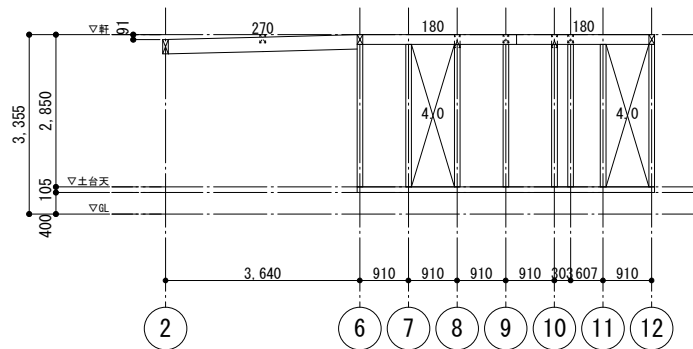
い ろ は に ほ へ と ち り め る を わ

軒継手伏図 1/100

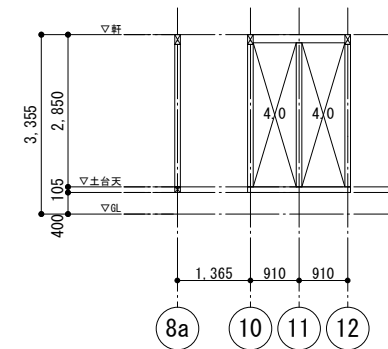
(1)	腰掛け蟻（蟻）継ぎ+厚さ3.2mmの短ざく金物で双方の横架材に対してそれぞれ径12mmのボルト締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	10.1
(2)	腰掛け蟻（蟻）継ぎ+厚さ3.2mmの短ざく金物2枚を用いて双方の横架材に対してそれぞれ径12mmのボルト締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	15.9
(3)	大入れ蟻掛け+厚さ3.2mmの鋼板に径12mmのボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）を用いて、一方の部材に対して径12mmボルト締め、他方の部材に対して厚さ4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	10.1
(4)	大入れ蟻掛け+厚さ3.2mmの鋼板に径12mmのボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）2個を用いて、一方の部材に対して径12mmのボルト締め、他方の部材に対して2個の金物それぞれについて厚さ4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	15.9
(5)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物、又は、かね折り金物（厚さ3.2mmの鋼板をL字型に折り曲げて出隅部の通し柱に取り付け直交方向の横架材端部どうしを径12mmのボルト締め）を用いて径12mmのボルト締めとしたもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	7.5
(6)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物を用いて径12mmのボルト締めに加えて長さ50mm径4.5mmスクリュー釘1本をそれぞれの横架材に打ち込んだもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	8.5



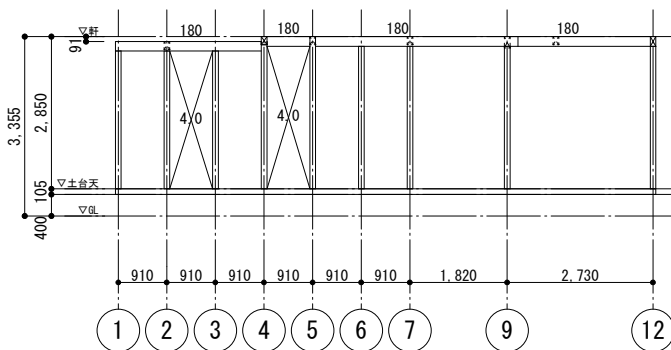
い通り軸組図 1/100



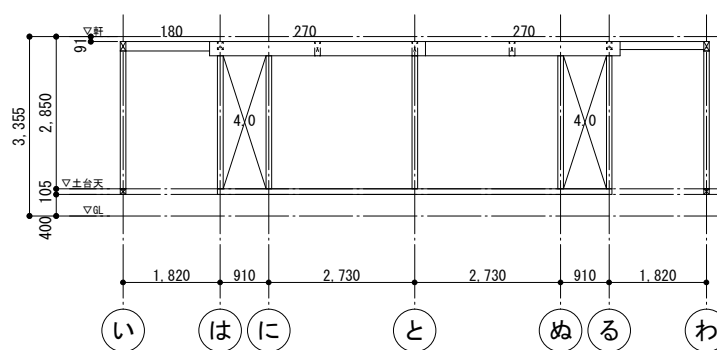
ほ通り軸組図 1/100



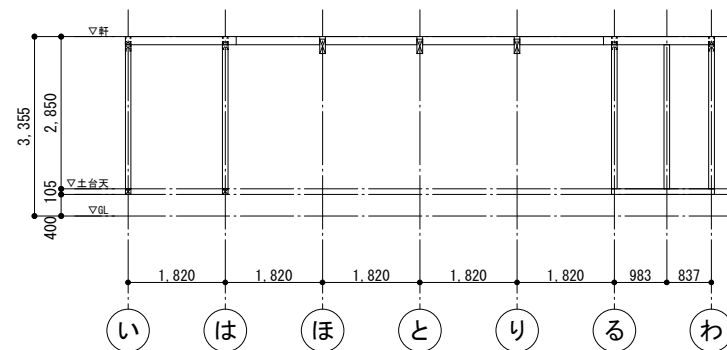
ち通り軸組図 1/100



わ通り軸組図 1/100



2通り軸組図 1/100

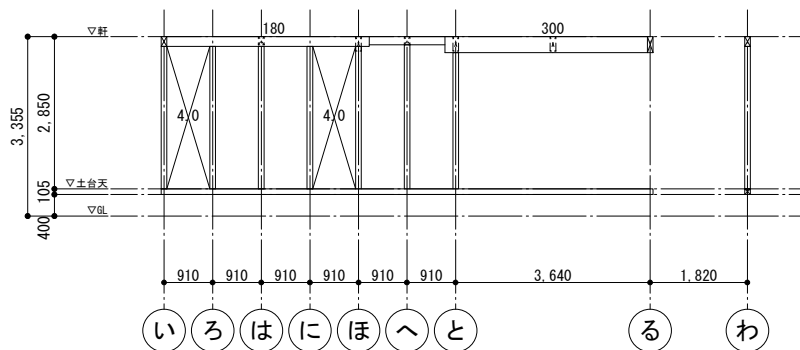


4通り軸組図 1/100

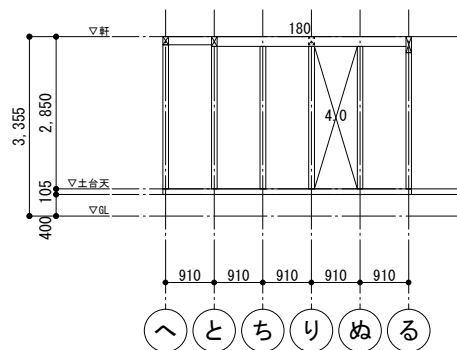
105角 1k=2.79 (m)
λ=92≤150

特記なき限り
柱105×105
梁105×150
束巾105
ハッチング及び
×は耐力壁を示す。
土台は伏図を正とする。

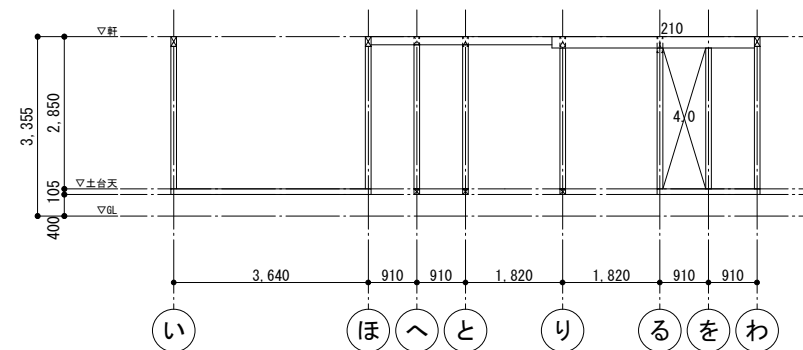




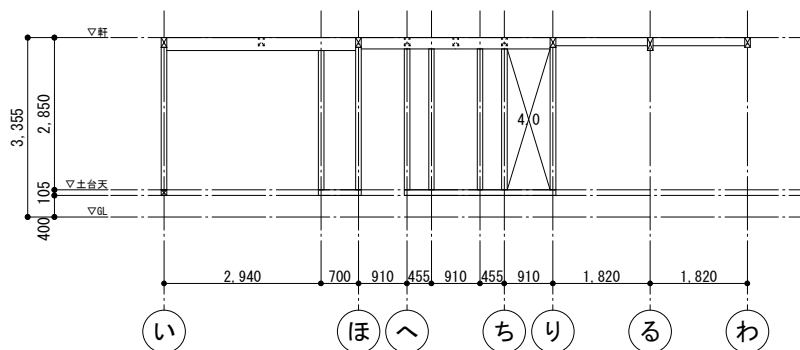
6通り軸組図 1/100



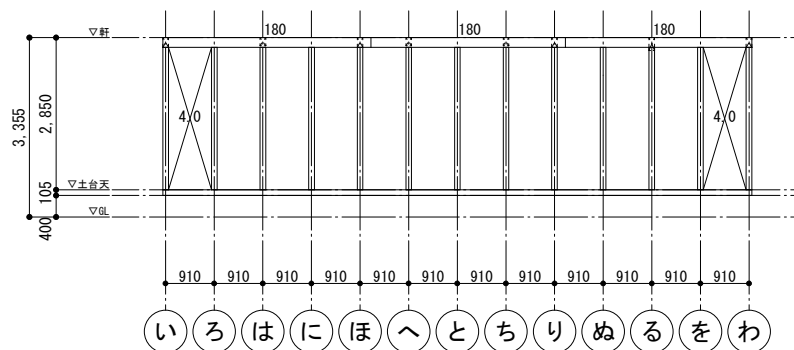
8a通り軸組図 1/100



9通り軸組図 1/100

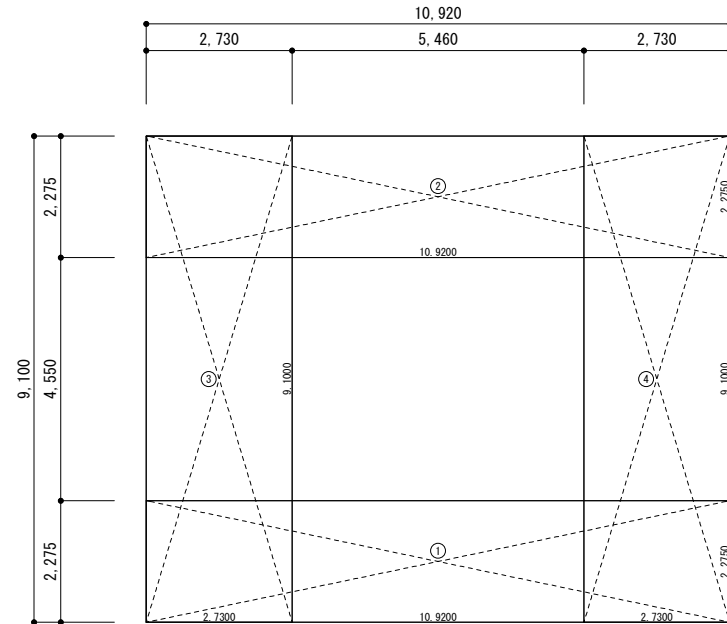
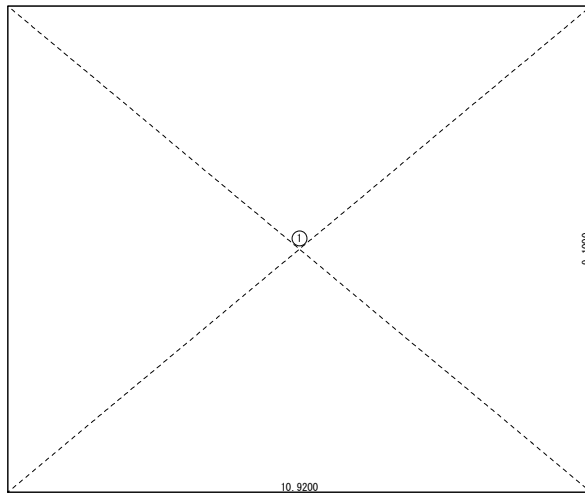


10通り軸組図 1/100



12通り軸組図 1/100

特記なき限り
柱105*105
梁105*150
梁巾105
ハッチング及び
×は耐力壁を示す。
土台は伏図を正とする。



1階床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	10.92×9.10	99.37
合計面積		99.37

1階1/4下側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	10.92×2.28	24.90
合計面積		24.90

1階1/4上側床面積

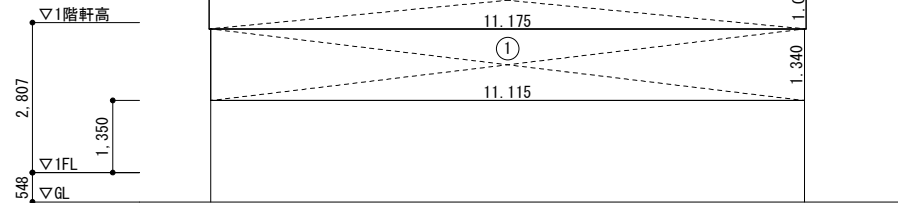
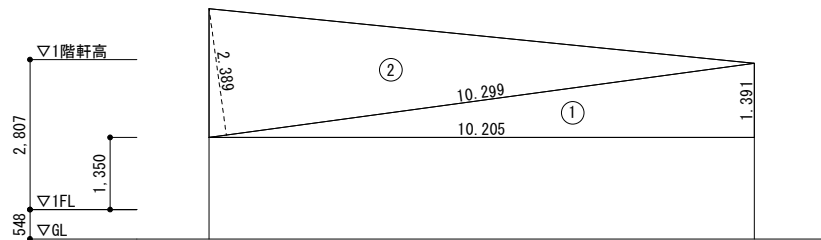
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	10.92×2.28	24.90
合計面積		24.90

1階1/4左側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
3	2.73×9.10	24.84
合計面積		24.84

1階1/4右側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
4	2.73×9.10	24.84
合計面積		24.84



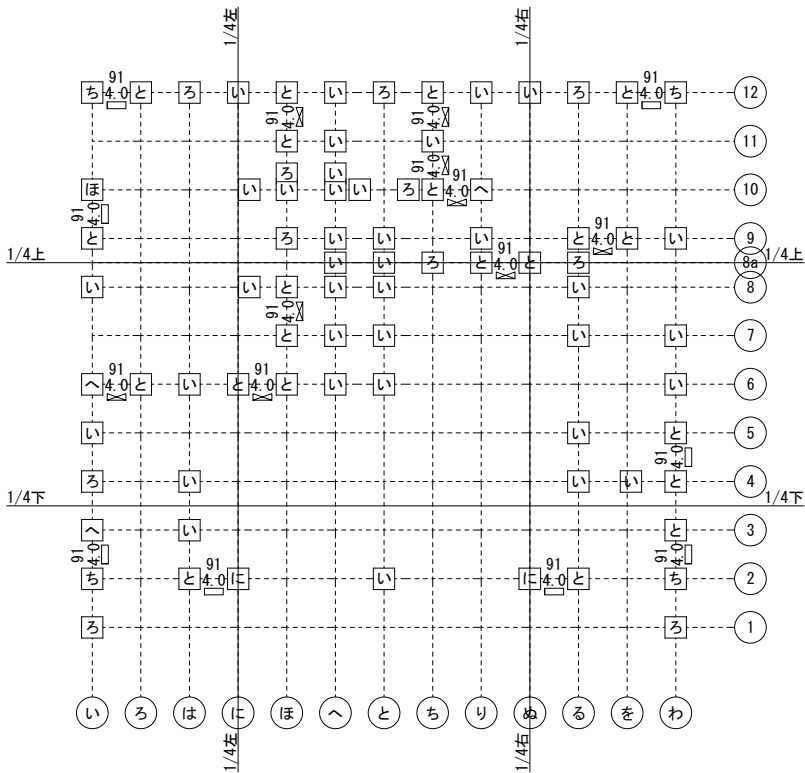
1階X方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	$10.205 \times 1.391 \div 2$	7.10
2	$10.299 \times 2.389 \div 2$	12.31
合計面積		19.41

1階Y方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	11.115×1.340	14.90
2	11.175×1.074	12.01
合計面積		26.91





1階柱頭柱脚金物伏図 1/100

※と以上の金物を柱脚に使用する場合はホールダウン等の基礎定着型の金物を使用すること。

令46条の計算

1階必要壁量の計算 単位 [面積 (m2), 壁量 (cm)]											
必要壁量 (地震力)				必要壁量 (風圧力 : X方向)				必要壁量 (風圧力 : Y方向)			
床面積	係数	必要壁量	見付面積	係数	必要壁量	見付面積	係数	必要壁量	見付面積	係数	必要壁量
99.37	11	1093.07	19.41	50	970.5	26.91	50	1345.5			
判定値				1093.07				判定値			
								1345.5			
1階存在壁量の計算 (斜め筋交いはcosθの2乗とする。)											
存在壁量 (X方向)						存在壁量 (Y方向)					
壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量
91	4	4	1456	91	4	4	1456	91	4	4	1456
91	5	4	1820	91	4	4	1456	91	4	4	1456
合計			3276			合計			2912		
判定			OK			判定			OK		
1階側端部分必要壁量の計算											
必要壁量 (X方向)						必要壁量 (Y方向)					
側端部分 (上)			側端部分 (下)			側端部分 (左)			側端部分 (右)		
床面積	係数	必要壁量	床面積	係数	必要壁量	床面積	係数	必要壁量	床面積	係数	必要壁量
24.9	11	273.9	24.9	11	273.9	24.84	11	273.24	24.84	11	273.24
1階側端部分存在壁量の計算											
存在壁量 (X方向)						存在壁量 (Y方向)					
側端部分 (上)			側端部分 (左)			側端部分 (右)			側端部分 (下)		
壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量
91	2	4	728	91	2	4	728	91	2	4	728
91	3	4	1092	91	2	4	728	91	2	4	728
合計			1820			合計			728		
側端部分 (下)						側端部分 (右)					
壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量	壁長	箇所	倍率 (計)	存在壁量
91	2	4	728	91	2	4	728	91	2	4	728
合計			728			合計			728		
1階充足率の計算											
側端部分 (上)			側端部分 (下)			側端部分 (左)			側端部分 (右)		
存在壁量	必要壁量	壁充足率	存在壁量	必要壁量	壁充足率	存在壁量	必要壁量	壁充足率	存在壁量	必要壁量	壁充足率
1820	273.9	6.64	728	273.9	2.66	728	273.24	2.66	728	273.24	2.66
1階壁率比の計算											
壁率比 (X方向)						壁率比 (Y方向)					
壁充足率 (小)	壁充足率 (大)	壁率比	判定	壁充足率 (小)	壁充足率 (大)	壁率比	判定	壁充足率 (小)	壁充足率 (大)	壁率比	判定
2.66	6.64	0.4	OK	2.66	2.66	1	OK	2.66	2.66	1	OK



